

1 はじめに

今年度から生徒一人一人にタブレット端末が配付され、各教科で本格的にタブレット端末を使用した授業が可能になった。保健体育科においても、これまで教師が中心にパソコンやプロジェクター、タブレットなどを使用してきたが、これからは、生徒がタブレット端末を有効に活用していくことになる。各領域で、有効活用について試行錯誤している中、今回は器械運動における活用について紹介したい。

2 研究テーマ

体育が好きで、進んで体を動かす生徒の育成 ～効果的な ICT 活用を通して～

3 活動状況

(1) マット運動における ICT の活用

① 生徒同士撮影し合い、技能をチェックする

- ・班やペアで動画を撮影し合い、相手の動画を見せて技能の確認やアドバイスをしたり、自分の動画を見て自分の技能の確認やアドバイスをもらったりした。



② 遅延再生機能の活用による自身の主観と客観の修正

- ・遅延再生ソフトを用い、試技の後すぐに自分の動きを確認できるようにした。確認したいポイントが分かっている、特にアドバイス等を必要とせず、記録として残す必要がない場合は、互いに撮影し合うより、スピーディーに確認することができた。



③ 模範演技を撮影し、練習の参考にする

- ・練習がスムーズに進み、技能が高まってきた生徒の動きを撮影し、お手本として各タブレットに送信した。動画のお手本が自分の手元にあることで、必要に応じて自分の練習に活かすことができた。



④ 記録を残し、評価に生かす

- ・毎時間、動画の記録を蓄積し、生徒が自己評価したり、自己の変容を確認したりする活動に活かすことができた。また、単元週末段階では、蓄積した動画により、教師の評価に活かすことができた。



(2) 跳び箱運動における ICT の活用

① 活動量確保のために定点撮影

・タブレット操作や、動画撮影、再生機能等に慣れていない段階では、機器の操作で活動時間が少なくなる可能性がある。そこで、基本的に定点で撮影することで、活動するときは活動に集中する、撮影した動画を確認するときは、動きを止めて効率よく確認するようにした。活動や撮影、動画の確認などが混在せず、はっきりと分かれていたことは活動量の確保に役立った。



② いつでも確認できるお手本

・お手本になる動画をあらかじめ生徒のタブレットに入れておき、授業中はもちろん、気になったら休み時間等にも確認できるようにした。いつでも簡単に確認することができるので、生徒はいいイメージを持つことができた。



③ 観察の視点の明確化

・自分たちの演技を撮影した動画を見る際に、ポイントチェック表と比較することで、できているポイントとできていないポイントがはっきりわかり、次に練習するポイントを絞り込むことができた。



4 反省と課題

- ・器械運動は比較的 ICT 機器を活用しやすい領域であり、教師も生徒も、様々な場面で有効な活用の仕方ができた。しかし、これまでは十分確保できていた活動量が、撮影や確認などで若干減少気味になる。活動量をしっかり確保しながら、さらに効率的に ICT 機器を活用する工夫をしていきたい。
- ・これから授業の中で ICT 機器をたくさん活用するようになってくる。器械運動だけでなく、球技のボール操作や用具の操作、ボールを持たない時の動きなどで、効率的に活用する方法を考えていきたい。
- ・天草の生徒が、これからも体育が好きで、生涯スポーツにつながる取組をしていきたい。